

については、差が可なり見られるが、信頼性については差は僅かである。社会性の比較では、スター児と孤立児との差は、僅かに見られる。即ちスター児は、誇張性が弱く、信頼性がある。また、劣等感の多少によって比較すると、劣等感の多いものは、少ないものより、誇張性が強く、信頼性はない。しかし、その差は、僅かである。

8. 自己評価水準と他者評価水準とのずれについて

お茶の水女子大学 筒井 智子

自己が自己についておこなう自己評価水準と、自己を取囲む多くの人々が自己についておこなう他者評価水準との間には多少とも「ずれ」を生じるのが常であるが、この「ずれ」を大別すれば、自己評価水準が他者評価水準より上廻る場合と下廻る場合とになる。

一体如何なる原因によって、この上廻りと下廻りとが発生するのであるか。この点についての一応の見通しをつけようとしたのが本実験の目的である。

これを調べるために、自己評価水準より他者評価水準の方が上廻っていると認定される男女各々2名、自己評価水準より他者評価水準の方が下廻っていると認定される男女各々2名、計8名の被験者（お茶の水女子大学附属中学二年）を選び、これらの被験者に田中向性検査と精神作業検査を行い、これとは別に、これらの被験者におこなった知能検査、ゲスフーテスト、ソシオグラム、生活環境調査、劣等感検査、学業成績これらの被験者の性格について担任教師があつめた資料などを参考にした。その結果の大要は次の如くである。

自己評価水準より他者評価水準が上廻っている者は、性格的要因についてみると、素質的には回帰性、経験的には外向性の傾向が大であり、能力的要因についてみると、素質的（一般知能）・経験的（学業成績）にも高い値を示している。また、自己評価水準より他者評価水準のほろが下廻る者は、性格的要因についてみると、素質的には分裂性の傾向が大きい。経験的には両向性乃至やや外向性であり、能力的要因についてみると、素質的（一般知能）には下廻り型の場合よりも劣っており、経験的（学業成績）にも劣っている。